

SUBTOTAL関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

SUM関数との決定的な違い

SUM関数との決定的な違い

SUM関数は「範囲内のすべてのセル」を合計しますが、SUBTOTAL関数は集計方法の制御によって「見えているセルだけ」を集計できるのが最大の特徴です。

=SUBTOTAL(集計方法, 参照1, ...)

関数	フィルターをかけた時	行を手動で非表示にした時
SUM関数	非表示のデータも含めて合計する	非表示のデータも含めて合計する
SUBTOTAL関数	非表示のデータは除外して合計する	設定番号（101~）により除外可能

 **活用シーン：** フィルターをかけ、請求書一覧で「未入金」だけに絞り込んだ際、 SUBTOTALなら「未入金の合計額」だけが瞬時に表示されます。

【保存版】「集計方法」番号早見表

【保存版】「集計方法」番号早見表

SUBTOTAL関数の第1引数「集計方法」には、計算の種類を指定する番号が入ります。「9 (SUM)」と「3 (COUNTA)」が実務での使用頻度No.1です。

計算の種類	関数名	①隠れた行を含める (フィルター非表示は除外)	②隠れた行を無視する (手動・フィルター共に除外)
合計	SUM	9	109
データの個数	COUNTA	3	103
平均	AVERAGE	1	101
最大値	MAX	4	104
最小値	MIN	5	105



ポイント: 通常のフィルター集計なら「1～11」でOK。
行の「右クリック＞非表示」も除外したいなら「101～111」を使います。

【実践①】 フィルター対応の「合計」を出す

【実践①】 フィルター対応の「合計」を出す

最も基本的な使い方です。表の上部（または下部）に設置しておくことで、フィルター操作に合わせて数値がリアルタイムに変動します。

シナリオ： 売上管理表（C列）の合計を、フィルターでの絞り込み結果に合わせて表示したい。

数式： `=SUBTOTAL(9, C2:C100)`

解説：

1. 第1引数に 9（SUM:合計）を指定。
2. 第2引数に集計したい範囲（C2:C100）を指定。
3. これにより、例えば「東京支店」で絞り込めば、東京支店だけの合計額に変わります。

【実践②】

行を消してもズレない「自動連番」を作る

【実践②】 行を消してもズレない「自動連番」を作る

行を削除したり並べ替えたりすると、手入力した「No.」はズレてしまいます。SUBTOTAL関数を使えば、常に上から「1, 2, 3...」と振り直される動的な連番が作れます。

シナリオ： A列に「No.」を振り、B列に商品名が入っている。B列の商品が見えている数だけ連番を振りたい。

数式（A2セルに入力し、下にコピー）： `=SUBTOTAL(3, $B$2:B2)`

解説：

- 3 は COUNTA（空白以外のセルの個数）です。
- 範囲を \$B\$2:B2 とし、始点（\$B\$2）だけを固定するのがコツです。
- 下にコピーすると \$B\$2:B3, \$B\$2:B4... と範囲が広がり、「その行までに表示されているセルの個数」を数えるため、結果として連番になります。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。